

氏名 梶谷 展 生
授与した学位 博 士
専攻分野の名称 医 学
学位授与番号 博甲第 4366 号
学位授与の日付 平成 23 年 3 月 25 日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻
(学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 Microinflammation is a common risk factor for progression of nephropathy and atherosclerosis in Japanese patients with type 2 diabetes
(Microinflammationは日本人2型糖尿病患者における腎症及び動脈硬化症の共通の危険因子である)

論文審査委員 教授 小出 典男 教授 西堀 正洋 准教授 草野 研吾

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

糖尿病性腎症及び動脈硬化症の進展における炎症(Microinflammation)の関与を検討する目的で、2型糖尿病患者 66 名及び健常人 39 名を対象にアルブミン尿(AER)、脈波伝播速度(baPWV)、頸動脈内中膜複合体厚(IMT)と種々の炎症関連分子の血清濃度を測定した。対照群と比較し 2 型糖尿病患者では血清 IL-6、IP-10、MCP-1 濃度が有意に高値であった。2 型糖尿病患者では AER は CRP、IP-10、TNF- α 、VCAM-1、E-Selectin と、baPWV は IP-10、TNF- α VCAM-1 と、IMT は CRP、IL-6、IP-10、TNF- α と正相関を認めた。重回帰分析では TNF- α が AER の、IP-10 が baPWV、IMT の独立寄与因子となった。以上より Microinflammation は 2 型糖尿病における糖尿病性腎症と動脈硬化症の共通した進展因子である可能性が示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究では、診断時に 40 歳以上で腎機能低下認めない 66 名の 2 型糖尿病患者を対象として IL-6、TNF- α 、IP-10、MCP-1、ICAM-1、VCAM-1、E-selectin、L-selectin、P-selectin などの各種サイトカインおよび動脈硬化指標としての頸動脈内中膜複合体厚(IMT)、脈波伝播速度(baPWV)、収縮期血圧、糖尿病腎症の指標としての尿中アルブミンなどを測定し、年齢・性別をマッチさせた健常人と比較検討を行っている。2 型糖尿病における尿中アルブミンには心血管イベントの既往と TNF- α に優位な関連があり、また baPWV は収縮期血圧、糖尿病罹病期間、IP-10 が優位な関連があることが判明した。このことから 2 型糖尿病における血管壁の軽微な炎症は動脈硬化症のみならず糖尿病性腎症の進展に共通して関わる因子であると結論つけており、このことは糖尿病性腎症の重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。